

令和3年度 第4回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和3年4月22日（木曜日） 午後1時30分から午後3時00分まで

開催場所 大手公民館 2階大会議室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、内山博行、倉田美智子、大門千恵美、
臼井和夫、山下京子、鳥羽弘幸、倉澤 聡、赤羽 勝、相原功子、久保 愛、
小林 修、松山紘子
（欠席 窪田隆彦、濱由佳子）

事務局 地域づくり課 住民自治局長 村山 修、課長 廣田圭男
市民活動・ユースサポート担当係長 胡桃澤伸一
地域づくり担当係長 床尾拓哉、主査 内田裕美

1 開会

（降旗委員長）

2 あいさつ

（住民自治局長 村山）

3 第3回会議録の確認について

（降旗委員長）

- ・ 事前に修正等の申し出なし。このまま確定としたい。

<意見等>

- ・ なし
→確定版を市公式ホームページに掲載

4 市の組織改正等について

（事務局 廣田課長）

- ・ 令和3年度の改正点及び取組みについて
- ・ 地域づくりセンター強化モデル事業について（地域自治支援交付金、センター長補佐の増員、地区担当保健師の駐在化等について）

<質問等>

（小林委員）

- ・ センター長補佐の増員は、全地区か、モデル4地区のみか。

（事務局 廣田）

- ・ モデル4地区のみ、計4人の増員である。

(久保委員)

- ・ 庄内地区の取組みは、どのように進めていくか。具体的にどういった人たちが集まり、協議していくのか。

(事務局 廣田)

- ・ 庄内地区については、地域包括ケア体制の構築を町会単位で考えていく。おそらく、そこに関係する人たちの意見を聞きながら進めていくことになる。

5 会議事項

(1) 課題・テーマの設定に関わる意見票について

- ※ 事前に提出した意見票の内容について、各委員から発表

(久保委員)

- ・ 地域で何か困ったことがあったとき、サポートが欲しいとき、どこにどうやって相談すればよいのか分からない。センターなのか、公民館なのか、誰に頼むべきか悩む。
- ・ 市民のニーズとそれに対して動ける人の需給が、スムーズにつながるようであればならない。整理が必要と考える。

(鳥羽委員)

- ・ 生活の変化等による関係性の希薄化が問題。お互いが知り合う機会を地域に作っていかなければならない。
- ・ 町会等、既存の組織の疲弊を聞く。負担軽減を図るとともに、自発的に、関心を持って参加できる取組みにしていく必要がある。
- ・ 堅い会議ばかりでなく、緩やかな情報共有の場を持つことで課題解決が図れるのではないか。

(臼井委員)

- ・ 浅間児童センターは、福祉ひろば、保育園との複合施設。合同の避難訓練に園児から高齢者まで幅広い世代が参加する姿に「地域」を感じた。
- ・ 児童センターの運営には、地域のさまざまな人が関わっている。児童センターを地域の一つの核としていけないか。

(小林委員)

- ・ 古きよき時代の地域社会には助け合いがあったが、今は外部サービスを金銭で買うようになった。そうした流れをふまえながら、課題を設定する必要がある。
- ・ 人と人がつながらなければならない。地域の支え合いをどうしていくか。
- ・ 今真っ先に取り組むべきは、人と人とが日々顔を合わせ、挨拶を交わすような環境をつくることではないか。

(2) 課題・テーマの検討

- ※ 上記発表をふまえながら、3グループに分かれて課題・テーマを検討し、その後各グループから結果を発表

<検討結果>

(丸山副委員長)

- ・ 「つながり」は重要だが、何によってつながるのか、つながりの核心＝「のり」を考える必要がある。
- ・ 子どもが多い地区であれば子育てが「のり」になるが、地区によって状況は異なる。一面的に考えるのではなく、地域の課題、状況をふまえながら、その地域にとっての「のり」を見つけていくことが大事

(小林委員)

- ・ お金を払えばサービスを受けられる世の中であって、人と人をつないでいくことが地域に求められている。
- ・ 住宅地の道路が今より優しいものになり、各家の庭先とつながるようになれば、おのずと地域もつながり出す。

(倉澤委員)

- ・ 「昔はこうだった」「昔は良かった」だけでなく、もう少し引いて考える必要がある。各々の経験を述べ合うだけでは、未来を模索する議論にはならない。
- ・ 「孤立」が問題になっている。自ら望んで孤立している人はよいが、つながりを求めながら、つながれていない人が大勢いる。どういった経緯でつながりにくくなるのかを把握しなければならない。
- ・ 場所によってつながる「地縁」だけでなく、地域を越えた「知縁」によるつながりも考えていきたい。

(松山委員)

- ・ 人のつながりがキーワード。居場所づくりと全ての世代をつなぐことが重要
- ・ 人が集まる場所は数多くあるが、中でも公民館は敷居が高いイメージ
- ・ 世代間の交流を進めるには挨拶が基本。そこから地域の助け合いが生まれる。
- ・ 地域の中でしか助け合えないこともある。地域のつながりをどう作っていくのかが一番の課題

(3) 全体協議

(降旗委員長)

- ・ 皆さんの発表を聞いて、人とのつながりが大切であることをあらためて感じた。

(倉澤委員)

- ・ たとえば「つながりが薄くなっている」といった場合、どういった点から「薄い」

といえるのか、そのことについてこの場で共有されているかといえば、されていない。

- ・ 複数人で探求していくには、現状に対する認識の共有がなければならない。現状をどう捉えるかがこれから大事になってくる。
- ・ 最初に大きな絵を描いて、そこを目指して進んで行くようなやり方もあるが、まずは使えるリソースを探して、できることをやってしまってから次に進む方法もある。

(丸山副委員長)

- ・ それぞれの地域で「どのようなつながりが求められているか」から話を始めないと、在り方論になってしまう。
- ・ 松本市内には多様性がある。地域ごとに特性が異なることを踏まえながら、その上でどんなつながりが求められるのかを意識しテーマを考えたい。
- ・ これまで話し合いを重ねてきた結果、「つながり」という方向性については共有できていると考える。

(降旗委員長)

- ・ 丸山先生と相談の上、次回までに方向性をまとめてお示ししたい。

6 今後のスケジュールについて

(事務局)

※ 資料に基づき説明

<質疑等>

- ・ なし

(以上)